#### C.P.I.Mates The Committee for Promotion to Innovate Japanese People by Educational and Cultural Contact, since 1979



2007.11

**No.7** 

認定 NPO 法人 C.P.I 教育文化交流推進委員会

発行所: C.P.I.スリランカ事務所

Mahindarama Road, Etul-Kotte, Kotte, SriLanka

本部;東京都三鷹市中原 2-16-9 Tel;0422-49-3808

E-mail: cpimate@gmail.com URL: http://www.cpi-mate.gr.jp

# 教育里親制度プログラム 20 周年、これまでに 6,000 人を支援 卒業した里子たちは、後輩のために立ち上がりました

## 奨学生卒業者会課

2007年8月27日、スリランカ 首都コッテの C.P.I.と SNECC の 共同施設で、教育里親制度プ ログラム20周年を契機として、 奨学生卒業者 全国大会が開 かれた。今まで約4.400人の卒 業生が巣立っている。今回は 首都の卒業生が主幹となり、 50 ヶ所の地域センターの奨学 卒業者の代表 120 名が参加し て、有意義な時間を過ごした。 グループ・ディスカッションで は、「卒業里子会による、スリ ランカでの教育里親運動の進 め方」について熱心に討議が 行われた。日本からも 23 名の 会員が参加し交流を深めた。



C.P.I.のスリランカ協力団体 SNECC のチャンダシリ事務局長から、C.P.I. 教育里親制度 20 周年を祝う挨拶。後列は日本から参加した里親さん



グループ・ディスカッションで熱心に討議する卒業生たち

# 日本のわたしたちも、教育里親を増やしましょう

C.P.I.は、発足当初から、"教育里親運動を通じて友好を育てる"ことを理念としています。 スリランカではとくに、スリランカ人の中にも教育里親運動を広げていこうとしています。 本年、C.P.I.-SNECC 教育里親制度プログラム 20 周年を機に、奨学卒業者たちの手で、 遂にその実現に向けて大きな一歩を踏み出しました。

本誌は、その特集号です。日本からの「参加者の声」もあわせてお読みください。 そして、会員一人ひとり、現地の想いを周囲の方に伝えようではありませんか。 ご紹介くだされば、その方に入会案内をお送りします。本部にご連絡ください。

FAX: 0422-49-3808 E-mail: cpimate@gmail.com

# CPIに感謝、後輩のために力をささげたい

ネルニカ・アトゥコーララ

里子番号:261 (卒業生)

#### 今の自分があるのは、日本の里親さんからの奨学金のおかげです。

私は1988年に日本スリランカ教育文化センターから奨学金を頂きました。私は経済的に色々な困難が沢山

ありましたが、小さい時から勉強が好きで6年生の試験でクラスの1番になりましたので、クラスの代表の先生は日本の奨学金の為に私の名前も申し込んで下さいました。私の家族のことや家のことを調べる為に SNECC 事務局長チャンダシリ僧侶が私の家までお越し下さり、幸い、私もCPIの里子として選ばれました。どんなに嬉しかったか、言葉で説明できないぐらいです。日本の里親さんは7年生から13年生(学校卒業)まで私に教育援助をして下さいました。



旧友と談笑するネルニカさん(中央)

### おかげさまで、私はとても幸せに暮らしています

日本の里親さんから奨学金を頂いて大変お世話になっているのだから、里親さんに自分の感謝の気持ちさえ日本語で伝えることができたらと思い、コーッテセンターで日本語の勉強を始めました。Aレベル試験の一つの科目として日本語を選びました。そして日本語能力試験の4級と3級も合格できました。それだけではなく、1994年にスリランカの日本大使館から行われた弁論大会で3番になることもできました。学校を卒業してからコーッテセンターで日本語を教えるようになりとても嬉しく思

っています。Aレベル試験で日本語にAパス(一番高いランク)で合格し、大学にも選ばれましたが、家族の事情で大学入学するより働いたほうがよいと思い、韓国に出稼ぎに行きました。私の家族は私と母だけでした。母は大変苦労をして私を育てて下さったのですから。1998年に帰国してコンピューターの勉強もして Sri Lanka Telicom(電話会社)に就職しました。今もそこに働いています。そして、2004年に結婚をしました。主人も C.P.I.の教育里子でした。今息子が1人います。

#### 私たちの力で、後輩の教育支援をする方を増やしていきたいです

私も主人も、私たちの人生を明るくして下さった C.P.I.の教育里親さんのことをとても大事に思って います。ですから、私たちも、経済的に恵まれてい ない家庭の学業優秀な子供の教育援助をしたいと 話し合っていました。

それで、SNECC のチャンダシリ先生と相談して、 卒業生による教育里親プログラムに参加しました。 私たちは、この制度の大切さと素晴らしさをよく知っています。私たちを育ててくださった里親さんへのお礼代わりに私たちも貧乏な子どもたちの力になることができて、とても輝かしい気持ちです。 卒業会の皆は、日本の里親さんと一緒に力を合わせ て、教育や国の発展の為に頑張って参りたいと思っています。私の人生の大きな力となって下さった、学校の先生、SNECCの事務局長はじめ皆様、私の里親さんをはじめ C.P.I.の里親さんの皆様に心から感謝しております。

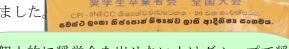


ネルニカさん 親となり支援金を贈呈する 卒業生として最初の教育里



卒業者大会での討議に励まされたことは、たくさんありました。

卒業者大会では、9組に分かれグループ・ディスカッションを行 った。日本から参加した会員も通訳を介し討議に加わりました





- 個人的に奨学金を出せない人はグループで奨 学金を出して戴いたらどうか
- 教育里親が足りないと、同じ環境・成績で奨学 金を支給されない学生のことを知らせたい
- 毎年卒業生会をして声を強くしていきたい
- 各センターで、日本語を教えるコースを設ける
- 日本語の教師のため研修プログラムがほしい
- 卒業後も里親さんとの関係を深める機会をつくりたい



- 卒業生が、皆ではなくとももっと参加してもらって、それぞ れの地域センターを活用できるようにしたい
- 現在の奨学生の生活、勉強などについての状況を、教育里親 さんにわかって戴けるよう手伝いたい
- 自分たちが OB.OG 会での結びつきを強くするために頑張る
- 他の機関に私たちの目的を説明して、その団体か らお金や、寄付をもらう
- (今日の準備会がしたように) 宝くじ、チケット、 フリーマーケットなどを行ってお金を集める
- 卒業生から個人的に寄付をしてもらう



# 私たちはどこから始まり、どこへ進むのか

# 教育里親プロジェクト 20 周年 卒業里子の自立を願って

C. P. I. 会長 小西菊文

思い起こせば、1987年10月21日、SNECC理事長のウダガマ・スマンガラ理事長と一緒に、C.P.I.がスリランカとの国際協力活動を相互に行おうと約束しました。そして日本で初めて "教育里親制度プログラム"と名付けた活動を始めてから、もうすぐ20年になります。プログラム名をこのようにつけた理由を、少し話しておきたいと思います。

私たちが始めるまで、「経済的に苦しいが能力が高い中学生・高校生」を支援するプログラムはなかったのです。それで、「少しでも経済的に余裕のある個人またはグループ」が教育に限って親がわりをする、まったく新しい奨学金制度モデル=教育里親制度プログラムを作りたいと考えました。<Human to Human の愛>による奨学制度をつくるということですから、政府の制度ではなかなかなし得ないモデルとなると考えたわけです。

そのときに抱いた夢がありました。

日本の人々がこの制度に参加することは、< Human to Human の愛>をもつ人々を、日本に増やすきっかけとなれば良いなというのがそのひとつです。

つまり、C.P.I.の『I』の部分です。

Innovate Japanese People という部分です。

また、教育里子を卒業する人々というのは、スリランカで 苦しかった学生時代を体験しながら、ささやかな奨学金 によって頑張ることができた人々ということになるので、そ の人たちがスリランカで教育里親となってくれたら、将来 は、日本とスリランカの教育里親同士が、手を携えて進 むことになるだろうと思いました。

そのような交流を通じて、日本の私たちが一層 < Human to Human の愛 > をもつ人々の輪を広げられるのではないか、こういうことも考えたわけです。

これが、私たちの教育里親制度プログラムの真実です。

あれから20年過ぎて、ようやく、昔に抱いた夢の実現に近づいてきたと感無量です。

これまでに C.P.I.のメンバーは、スリランカで 6000 人以上 の学生を支援してきました。 その中には、 ずっと長いこと ご支援くださっている方々もおられます



奨学生卒業者会 全国大会で挨拶する小西会長

手紙をなかなか教育里子に出すことのできない人も、一度もスリランカに訪問できない人も、 心の中はいつも<Human to Human の愛>に あふれ、皆さんを励ましてきたと思います。

この数年私は、スリランカの人々が教育里親制度プログラムに参加できるようにしたいと、SNECC と話し合ってきました。いまここに集っている卒業生の皆さんが、スリランカの人々が教育里親制度プログラムに参加するための CORE (中芯)の役割を担おうと言われる。これほど嬉しいことはありません。

C.P.I.の会員さんすべての喜びでありましょう。 これから、日本とスリランカの、"教育里親制度 プログラム"を支える者同士が交流を行って、両 国の社会を良くする活動を進めて頂きたいと思 います。進め方は、目的をもってフラットな関係 で行うこと、「何にも知らなかった自分を知りた い」と謙虚な気持ちで行うことが大事です。

私も交流のお手伝いをしたいと思います。 C.P.I.のテーマは、「ロマンをもって、行動は軽く、 生涯楽しく」です。困難があっても、このテーマ を胸に、愉快にがんばっていきましょう。

# 成長した里子たちが卒業生会を結成 後輩に奨学支援を始めます

SNECC 事務局長 M.チャンダシリ

20年間の教育支援が、実を結ぶ時がやってきました。成長した 里子たちを喜び、支援を続けてくれた C.P.I.会員様に感謝します。

今年はCPIとスリランカ日本教育文化センター (SNECC)が20周年記念を嬉しい心でお祝いしています。田んぼを耕して収穫をするときの楽しさを感じています。

20年前、C.P.I.の小西さんと私たちは、経済的に恵まれていない家庭の優れた子どもたちの教育援助をする"田んぼ"に足を入れました。日本の教育里親さんはその活動への出資者・参加者としてご協力して下さいました。私は今とても嬉しく思っていることがあります。C.P.I.も SNECCも、小さな団体として始まってから、現在の立派な団体となるまでの間に、教育里親制度が"田んぼ"への出資を戴いてきたことによって、ずっと大きい収穫を得ているということです。それはご援助して下さっている皆様にとっても大変喜ばしいことだと思います。

現在、C.P.I.の教育里子卒業者は 4、350 人ぐらいです。その中の多くは、大学または職業訓練学校を卒業してスリランカの発展の為に色々な分野で就職し満足できる生活をしています。それが私達と日本側の皆様の第一の目標だったと思います。

今年は卒業生を集めて、スリランカ国内で教育里親プログラムを設立する計画をたてました。C.P.I.の小西さんが何年も前から話していたアイデアを、ようやく実現できることになったのです。

スリランカ全国に広がっている SNECC 地区センター 114 箇所の中で卒業生会に登録した人が 15 人以上 いるセンター50 箇所で卒業生会を設立しました。その卒業生会の代表者の最初のミーティングが、今日、8月 27 日に開かれたわけです。日本の C.P.I.から

小西さんはじめ 23 人の会員さんが参加して下さり、教育里子卒業生が個人またはグループとして教育里親に



なる活動が始まることになりました。卒業生はこの 活動に熱心に頑張っています。2008年に少なくて も50人の教育里親をスリランカに創る目的で今活 躍しています。日本の教育里親さんからの奨学金 を頂いて勉強を成功し、立派な大人になって、教 育里親さんに学んだことを実際に活かしているとい うのはとても素晴らしいことだと思います。

スリランカ人の私たちは、現在二つの問題で苦しんでいます。それは恐ろしいテロの問題と石油がどんどん上がっていることで起こっている経済問題です。これによって貧困な家庭の生活は考えられないぐらい大変な状況になっています。これらの問題を解決する為には平和に満ちた豊かな国を作らなければなりません。その為には現在の子供達によい教育を与えなければなりません。その面でC.P.I.-SNECCの教育里親制度は大事な役割をはたしてきました。C.P.I.の皆様のご協力は大きな力であり、まだまだご支援をお願いしなければなりません。どうもありがとうございました。



集会の後、キャンプファイアーを焚いて決意を新たにした。

### 卒業里子集会・日曜学校発表会に参加して

# たくましく成長した里子たちに目を細める里親さん

今回の奨学生卒業生大会には、小西会長、牟田理事と全国の里親会員さんとその家族の方たち、総勢 23 人の方が参加されました。大会の前日(26 日)は、SNECC の日曜学校に通う子どもたちの発表会『日本スリランカ文化フェステバル』にも参加し、作文や漢字の書取り、活け花などの評価をしたり、ハーモニカ演奏や日本舞踊の披露などもされて、子どもたちとの有意義な交流をされました。

一般参加をされた加藤美千代さん(神奈川県)から貴重な投稿をいただきました。

#### 拝啓

相模原の加藤でございます。先日はたいへんお世話 になりまして、本当にありがとうございました。 牟田様のおかげで、私たち姉妹で思いもよらぬ感動 の日々でした。

一般参加の立場で何の予備知識も持たずに参加し、 理解不足で戸惑うこともありましたが、現地の方々 のご配慮や、ご一緒に参加の皆さんの気分に触発さ れて、すっかり楽しんで参りました。

個人的にも学ぶことの多い旅でした。里親制度のことは活字で目にしたり、姉から聞き及んでもおりましたが、その実際に触れることができたことが、価値ある体験でした。

同じ仏教国のお国柄の違いも新鮮で、あの純粋さに心うたれました。このような感動は私の人生の中では悲しいかな、忘れられたものでした。

CPIの小西さんの目指すことがとても良く理解できました。

折しも帰国直後に、テレビでバングラデシュを紹介した番組を目にしました。

貧困は人の可能性を閉じ込めてしまう。マイクロクレジットの創設者が、昨年のノーベル平和賞を受賞したことを、あらためて思いました。

責任を持って人を自立させる活動。お金の使い方。

この活動に重ねて見ておりました。運営される方々のご苦労を感じる次第でございます。

私も数十年来福祉関係のボランティアとして、社会参加して参りましたが、これから歳を重ねてきてからの、越し方、行く末を考えるよい機会



となりました。こういう参加の仕方もあると考えるようになりました。

若いころ、明治生まれの知人からきいた、貧者の 一灯、という言葉を思いだしました。

今回参加して、意味は違うのかもしれませんがこの一灯は、現地の支援を受けてきた子供達の胸に秘めた希望の灯であると思えてなりません。そして支援する私達が感じることができた、無償の愛の灯、でしょうか。 金銭にかえられぬものであるはずです。 いずれにしても根底にある仏教思想が身についたあの、自然に行われる合掌する姿は美しいものでした。

この機会を与えていだだきまして、ありがとうございました。

CPI, ならびにスリランカの皆様の今後の発展を 祈念いたします。 敬具



活け花のコンテスト風景



日本語スピーチのコンテスト風景

# 元気なお母さんに会えて夢のよう! わたしも負けないでがんばります

リドゥマ・ラサーンジャリ (Ridma Rasanjali) No.5492 コーッテ・センター

C.P.I.から奨学金を頂けることを聞いた日のことを、私の人生の中で忘れられない思い出です。教材を沢山頂いたその日、嬉しくて嬉しくてたまりませんでした。私の日本の里親さんにお会いした日もその日と同じように嬉しかったです。



リドウマさんと里親の篠塚さん

### 突然、お母さんが日本からやってきました

奨学金を頂いたときから、私も日本の里親さんとの交流を希望していました。いつも日本の里親さんに私のことやスリランカのことを書いてお手紙を出しました。いつも日本の里親さんからのお便りを楽しみに待っていました。私の友達は時々自分の里親さんからお手紙をもらっていました。皆とても喜んで自分の里親さんからのお手紙を待っている間に、不思議なことに遙か遠い日本からわざわざ私に会いに来て下さいました。

日本のお母さんがスリランカにいらっしゃるということを本部センターから聞き、あわてて家に帰ってすぐ母に言いました。それから家族の皆に手伝ってもらってお母さんにさしあげる為にお土産を用意しました。日本のお母さんには私の感謝の気持ちを伝える為にこれより良いチャンスがないと思いました。2007年8月27日に私は母と一緒に日本のお母さんに会いにコーッテセンターまで行きました。

## お母さんの踊る日本舞踊に感激しました

お母さんは日本舞踊の先生で、センターのフェスティバルで日本舞踊を踊りました。とても素晴らしかったです。私の日本のお母さんは舞台の上で踊りをするのをみていてとても誇りに思いました。お母さんと同じ年齢のスリランカの女性なら、そのような素晴らしいことは出来ないと思います。身体とともに心身も強いことに感心しました。お母さんの健康でいらっしゃる理由は意味深い人生だと思いま

す。お母さんはとても親切な方で、「困難を乗り越 えて頑張って勉強して下さい」とおっしゃっていま した。その言葉は私に自信を与えてくださいました。 日本の家庭の状況を説明して下さいました。スリラ ンカのように両親と子供は長い間一緒に住むこと はとても大事なことだとおっしゃいました。そして 日本のことを色々と沢山教えて下さいました。

## いつか、きっと恩返しができる日がくると思っています



日本舞踊を披露する篠塚さん

その日はあっという間でしたが、日本のお母さんと一緒にとても楽しい一時を過ごすことが出来ました。お母さんのご援助にたいしての恩返しはなかなかできませんが、お母さんとお会いできて何より嬉しかったです。そして、いつか私も日本とスリランカのためになれるような人間になろうと思いました。ずっと長い間私の教育援助をして下さっている日本の里親さんとスリランカ日本教育文化センターに心からお礼を申し上げます。

## "百聞一見にしかず "スリランカの文化に触れました

#### 里子交流会に参加して

寄稿: 佐竹芳郎(福岡県)

私は会員になってから3年目ですが、今回ツアーに参加した里親の 半数は10年以上里親を続けている人達でした。3人~5人の里子を 持った人達も多くいました。本当に里子に愛を注ぐ気持ちのいい人達 でした。今回の「里子との交流ツアー」に参加して、いろいろな発見を することができました。

#### 高校、大学めざし勉学に励むロシャーニさん

私の里子ロシャーニは、内陸丘陵地のハットン村からバスで5時間かけて会いに来てくれました。目鼻はきりっとして可愛らしく利発な子でした。

スリランカには寺の日曜学校があるので毎週仏教の教えや踊りなどを習っているとのことでした。文通によりクラスで1番の成績であると聞いていましたが、12月には高校入試があり毎日勉強している、できたら大学にも行きたいと話し、母親も娘は国のためになる仕事に就けさせたいと言っていました。私は是非頑張って合格するようにと激励しました。

お別れする時にロシャーニは、お坊さんにするように私の足元にひざまずき丁寧な挨拶をしてくれました。本当に礼儀正しく気持ちの良い子でした。

#### カリーのおいしさを再認識

スリランカに初めて行きましたが、印象に残ったことは、まず食べ物です。スリランカ料理はカリーです。色々なスパイスを使ったチキンカリー、豚カリー、牛カリー、魚カリーをメインに色々な野菜のカリー、辛いもの、甘いものなどレストランのランチでも10種類ぐらいのカリーが出てきます。ぱらぱら飯に好きなカリーをいくつか取り、右手で混ぜ合わせながら自分好み流で食べるのです。手で食べる方が確かにおいしいと感じました。右手の指の先にカリーを乗せ親指の爪で押し出しながら口に入れるのです。ぱらぱら飯の方が合います。スリランカ人は3食ともカリーです。

#### 安くておいしい、豊富な果物

次に、熱帯の国なので果物は豊富でおいしかった。 よく食べたのはバナナ、パパイア、パイナップル、 スイカ、マンゴー、マンゴープリンなどですが、バ



ロシャーニさんと佐竹さん

ナナはやや青くても香りが強く甘くておいしかった。 道路沿いで売っているヤシの実1個の汁は甘みが少なく生臭い味でしたが25円位と安く、果物の王様のドリアン1個は大変甘く濃厚な味でしたが350円位と安かった。物価は安く、里子が5時間乗ったバス代が200円、普通の店でのカリー1食代が80円位、中堅のサラリーマンの月収が12,000円位です。

#### スリランカ社会を認識

次に、道路交通は英国の植民地でしたので車は左側通行、高速道路はなく、一般道路のみ、アスファルト舗装が真ん中だけしてあり、端は1段低く土のままでそこが歩道代わりで路面排水溝がない道路が多かった。車は多いが無理やり追い越していく車が多く、ヒヤヒヤしました。バスが扉はなく大勢の人が掴まっているのに猛スピードでよく追い越しをしていたのは肝がつぶれました。ロータリーの交差点が多く、治安が悪いので4km置き位に検問所があり銃を持った軍隊が怪しい車は調べていました。

次に、仏教は紀元前3世紀にインドから伝わり、 仏教徒が7割と多く坊さんを尊敬しています。僧侶 は出家し、結婚はしない、酒飲まない、食事は朝、 昼だけの2食のみと日本より規律が厳しい。世俗の 者は僧侶に対して功徳を積み、生まれ変わるときに はより良い状態を願うのです。

スリランカの旅はいろいろ気付かせてくれた旅と なりました。

### "里子の成長に驚き、喜びがあふれる

寄稿: 鈴木喜久子 (東京都)

インド洋の真珠」と日本語の作文中に母国を表現した子が何人かいた。何度拭ってもあふれでる汗は、若者たちのにこやかな笑顔と熱いミルクティで苦にならなくなった。私どもへの感謝の言葉が入った日本語の歌、彼らの国の歌や踊りを堪能した。

わが子に会えるかどうか、期待と少しの不安を抱え私の名と息子の名が呼ばれるのを待った。彼と初対面、中学生になったばかりの幼い顔の写真しか見てなかったため、大学生になり下顎に 1~2 c mの髭を生やした笑顔に驚き、同時に嬉しさがこみあげてきた。英語をろくに喋られない私に、SNECC事務局長チャンダシリ氏の通訳で語られた彼の最初の言葉は、「奨学金がなければ私の今の姿はない。心からお礼を申し上げる」というものだった。CPIの会員になり本当によかったと思い、同時にたどたどしい単語や目と目で語り合うしかないもどかしさを味わった。

Eメールを交わす約束をして別れた。今彼がパソコンを無償で使える環境にいるのかどうか気になっている。成長して学業や仕事に励む彼らに、自由にそして有効に利用できるパソコンがある環境を整えてあげられればいいなと考えてしまう。



成長した里子と面会する鈴木さん

最高の席を用意してくださり、ペラヘラ祭にはまった。釈迦を敬い、象を愛する人々の心を垣間見た気がする。文化三角地帯でスリランカの世界遺産に接する機会を与えてくださった方々に感謝している。 大粒の輝く真珠を胸中に抱えスリランカから帰ってきた。

美しい笑顔やおいしいお料理でもてなしてくださったセンターの皆様と、上手な日本語で通訳してくださった方や、ガイドさんにお礼申し上げます。

CPIの活動がますます盛んになり、スリランカの 人々との友好がより深まることを希っています。

# 子どもたちから貰ったエネルギー

寄稿: 金沢正輝 (東京都)

このたびのスリランカ旅行では、ほんとうにお世話になりました。

おかげさまで、無事帰国し、誠に有難く厚く御礼申 し上げます。

小生には、2度目のスリランカでしたが、やはり深い感動と強いエネルギーを貰いました。国レベルでの南北格差、また当該国内での格差の存在。前回訪問時から約10年経過し、上中位者の生活レベルは向上しているように見えますが、低位層の困窮状況



里子たちと面会する金沢夫妻

は、自転車の普及が高まったように見受けられるくらいで、殆ど改善していないように見えました。

こどもたちから貰ったエネルギーを保持しながら 日常生活に戻りたいと思っております。

### "課題の多い里子たちの生活"、卒業生と一緒に考えていきたい

### 寄稿: 鈴木千枝子 (神奈川県)

#### 真剣なまなざし、日曜学校の発表会、

成田空港で皆様とお逢いできて、まずホッとしました。未知の国への旅立ち、不安ばかりが胸をよぎります。しかし、参加された方々とご挨拶をし、お話を交わして行く内に、不安が期待に替って参りました。

翌26日、スピーチコンテスト、日本語を勉強して 2~3年とのことでしたが、立派なスピーチに驚かさ れました。本人の努力は元より、指導者の熱意が強く 感じられ頭が下がります。

午後は書道。初めて筆を手にした子供たちは、目を 輝かせていました。限られた時間の中で筆を運び、何 とか作品にしようと頑張る姿がとても健気で可愛く 映りました。私は、作品の良し悪しではなく、こども たちが真っ白いお洋服に墨汁をつけたら大変と、ただ



ただそちらの方に神経を使いました。お道具も しっかり揃っていましたので、これからも筆を 持つ機会があって欲しいと思いました。

#### 通学に4時間、自転車があったら・・・・

27日、里子との対面。まず、卒業里子が立派な青年であることに胸がつまりました。皆様のご支援により卒業して、社会人として活躍していますとの意思表示。また、関係者皆様への敬意の表現でしょうが、スーツ姿が、目映い限りでした。

次に現在の里子。中学生の里子は、通学に4時間かかるそうです。毎朝家を出るのが夜中の2時とか、日本ではとても考えられないことです。お話を聞いているうちに、真剣にお勉強に取り組んでいる様子が手に取るようにわかりました。そこで、私が思ったこと。「この子に自転車を贈ってあげよう」そうすることに

よって通学時間が短縮され、その分をお勉強時間に当てることができると思いました。

スリランカの現状を未だほんの一部分しか 見ていませんので解りませんが、もっと最優先 課題が沢山あると思います。まず、私が感じた ことを書かせていただきました。

6日間本当にお世話になりました。 牟田様 をはじめ、皆様お疲れ様でございました。

お礼旁々、感想文とさせていただきます。 ありがとうございました。



#### 里親さんとの対面に彼女は緊張していた

大会のために作られた T シャツには次の言葉が書かれていた。

さとおやさんから おしえてもらえたこと やさしさ ものをたいせつにすること かんしゃの心 おもいやりの心 にほんのしゅうかんとぶんか にほんのことば



# スリランカ 現地事務所から

### 教育里親と教育里子は大きい家族

来年から、教育里親制度へのスリランカ人による参加が始まります。奨学生卒業者たちは、まず自分たちで50人の教育里親となり、次に地域の人々に呼びかけを始めています。 C. P. I. の活動に集う人々はみんな私たちの家族です。大きな教育支援の輪になってゆくことに期待しています。

奨学生卒業者たちに呼応して、日本の私たち も教育里親を増やそうではありませんか。

今回、交流団で行かれた佐藤さんから寄稿 文を戴きました。CPIの私たちは、今後このよ うに奨学生卒業者たちと、教育里親の仲間と して励ましあい、楽しく交流する関係になる と思います。



## 卒業里子の案内でエコツアー

寄稿:佐藤幸三 (岩手県)

Mr.S. S. R. Pathmakamara. ニックネームは SENAKA (セナカ) さんと言う。私の宿泊する隣 のホテル、ランウェリ ホリデイヴィレッジで、ナチュラリストとして働いているということで 今回の C. P. I. 奨学生卒業里子大会で紹介して戴 いた。

彼は動物や植物に興味があり、大学では化学、動物学、植物学、環境学を学んで、今のホテルに勤務して2年になる。ホテルオーナーとともに、環境保全に努めているとのことです。

C.P. I. の教育里親という縁で私たちはすっかり打ち解けることができ、彼の案内によるエコツアーに参加することにして、午前 $7\sim10$ 時頃までセナカさんと、運河をボートでバードウォッチングを行った。

このツアーでは、28種類の鳥を確認することができ、 $1\sim 2$  mのウォーターモニター (トカゲ)も4匹見ました。さすがに、2 mくらいになると少し怖い感じがします。それがホテル脇の運河に住んでいるのですから驚きです。

彼の教育里親は、東京国分寺の江澤さんと言う方で、「彼女にとても感謝しています」とのことでした。

スリランカ旅行の最後の日を、休養を兼ねて、空港近くの(18km)ニゴンボで過ごした良い思い出でした。皆さんも、ニゴンボでエコツアーはいかがでしょうか。C.P.I.の卒業里子、セナカさんがよろこんで迎えてくれますよ。

## ホームページを開いてください

みなさん、このホームページを開いてください。教育里子の生活や学校の様子を映像でご覧戴けます。 http://www.cpi-mate.gr.jp/my-travel.html

C.P.I.のメインページで地図をクリックすると、里子新聞のバックナンバーも見つかりますよ。 ご友人にも知らせてあげてくださいね。